

## 第2回 彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

日 時 令和元年(2019年)8月23日(金) 9:30～

場 所 彦根勤労福祉会館 4階 大ホール

### ○地方創生推進室長

ただいまから、第2回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を開催させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶を申し上げます。

### ○市長

皆様、改めましておはようございます。残暑厳しい折、また皆様は大変お忙しいところ第2回のまち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。また日ごろから市政の各般にわたって、ご指導・ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日は、総合戦略に当たります平成30年度の各施策につきまして、4つの基本目標ごとにそれぞれの皆様方に専門的意見・知見による評価・検証をお願いするところがございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

基本目標が4つございますが、その一つ目は、産業・雇用に関する施策が記載されてございまして、本市の活力がある産業経済をつくっていくために必要な施策が挙げられています。

基本目標2につきましては、仕事と子育てを両立できて、子育てしやすいまちづくりや時代変化に即した教育環境の充実、ふるさとに愛着や誇りを持つ子どもたちのすこやかな育成を目指すための施策が挙げられています。

そして基本目標3につきましては、若者の地元企業等への定着、またさらに若者の起業など、若者の定住や雇用につながる施策を挙げているところでございます。

そして基本目標の4つ目でございますが、予想される人口減少社会に対応できるまちづくりを進めていく各種の施策が挙げられているところでございます。これら施策は市担当で取り組むというものではなくて、産官学金労言、オール彦根で取り組んでまいらなければならないと思っております。本日皆様方から頂戴したご意見を次期の総合戦略に反映してまいりたいと考えております。ぜひ皆様の率直なご意見を頂戴したいと思っております。

す。

この総合戦略の取組をより効果的なものとしていくために、ぜひとも皆様方の力をお貸しいただきたいと改めてお願い申し上げてご挨拶をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○地方創生推進室長

ありがとうございました。

なお、市長におかれましては、本日はこの後ほかの公務がございまして、大変申しわけございませんが、ここで退席させていただきます。よろしくお願ひいたします。

改めまして、本日は委員7名、全員がご出席でありますので、彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会設置要綱第6条第2項に規定いたします、定足数を満たしておりますので会議は成立することをご報告いたします。

では、同要綱第5条第1項の規定に基づきまして、ここからは会長に議事進行をお願いしたいと思います。

それでは会長、以後進行よろしくお願ひいたします。

○会長

ありがとうございます。それでは改めまして、おはようございます。

本日はご多忙の中、また残暑厳しくお集まりいただきましてまことにありがとうございます。

それでは、早速ですが、本日の議題の1番目、地方創生推進交付金事業の再審議結果についてでございます。これは第1回の審議会で継続審議となっております、委員の皆様にご改めまして書面で審議をいただいたというものでございます。それでは事務局より説明いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局

それでは、資料1に基づきまして、事務局のほうから再審議結果についてご説明させていただきます。

まず、各委員のご回答結果についてでございますけれども、(1)事業評価については、当該事業は本事業のKPIである観光入込客数を増加させる効果があったとご回答いただいた委員が4名、部分的にはあったと答えていただいた方が3名となっております、全体的に肯定的な評価をしていただいております。

また、(2)本事業に対する自由記述の意見につきましては、観光事業全体が一丸とな

って取組を進めることが重要であるとか、これまでの取組に対しての一定の評価はできるがPRが不足しているであるとか、事業の今後の工夫例を具体的にご記入いただいたりしております。また、KPI自体は達成とならなかったものの、将来的な観光入込客数を増加させる事業が多数実施されている。あるいは、食文化という言葉があるように、長い時間をかけて、観光コンテンツとして育てる必要がある。この事業としては基盤を固め着実に成果を上げているといったご意見をいただいたところでございます。

それを受けまして、事務局といたしましては、本事業については本事業以外の観光入込客数の減少要因である、国宝・彦根城築城410年祭やNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の終了による反動減、および台風など天候不順による減少を打ち消すほどの強い増加効果はなかったものの、観光入込客数を増加させる効果があった。

今後の取組の方向性としては、特にPRを強化することや他の観光事業との連携を高めることで、より効果を発揮することができる可能性がある。

これまでの交付金事業を通じた投資を確実に生かしていくためには、今後も地道な取組を継続することが必要であり、地域経済振興課を初めとした市関係部局と近江ツーリズムボードが連携し、「食」を通じた観光魅力度のさらなる向上に取り組むことを期待するとさせていただきますと考えております。

以上が事務局の説明でございます。

○会長

ありがとうございました。ただいま事務局のほうから結果および案についてご説明いただきました。委員の皆様このようなことでいかがでしょうか。ご意見いただければと思います。

特にございませんか。事務局案でご了解いただけるでしょうか。

(異議なし)

○会長

異議なしということで、事務局案で取りまとめさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、次にまいりたいと思います。

次の議題は、議題2、平成30年度施策の評価についてでございます。こちらにつきましては、先ほど市長からもご説明ございましたように、4つある基本目標を順次評価を行う予定としております。評価の進め方といたしましては、各基本目標に掲げる内部評価の

結果について、市の方からご説明をいただきまして、そして委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思っております。

この場に出た意見につきましては、事務局のほうで取りまとめをお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それではまず基本目標1について、市側にご説明をお願いしたいと思います。お願いします。

○雇用創出部会長

それでは資料3-1をご覧くださいと思います。まず、私のほうから最下段にございます、平成30年度の評価と課題のところからご説明させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

まず、施策名(1)企業立地や産業集積の促進等による地元での就労環境の整備でございます。まず、KPIで有効求人倍率彦根市管内でございますけれども、目標値1.36に対しまして結果は1.78で評価は○でございました。

課題といたしましては、彦根管内のフルタイム雇用の求人の多くは製作工程の職種でございます。パート求人ではサービス業が多い現状は継続し、慢性的な人手不足であること、それから本市地域では製造業が多く、労働力の安定した確保が必要であると考えているところでございます。

次に課題解決に向け、今後実施すべき取組でございます。今後の取組として略して説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。取組といたしましては、彦根地区雇用対策協議会におきまして、課題解決に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

続きまして、KPI名、工業製品等出荷額でございます。

こちらは目標額5,855億円に対しまして、結果は6,707億円、評価は○でございました。

課題といたしましては、景気が緩やかに回復しつつある中、目標を達成できましたが、今後も新規企業の進出や既存企業の設備投資等の促進といった、企業立地促進策による経済活性化が必要であると考えているところでございます。

今後の取組といたしましては、制度の周知や施策の推進によりまして、企業の設備投資の促進や企業誘致を図っていきたいと考えているところでございます。

続きましてKPI名、工場等設置奨励措置件数累計でございます。こちらにつきまして

は、目標値 65 件に対しまして、結果は 83 件で評価は○でございました。

課題といたしましては、平成 29 年度に改正を行いました彦根市企業立地促進条例の周知とともに引き続きの助成措置が必要であると考えているところでございます。

次に今後の取組といたしましては、制度の周知に努めまして、企業の設備投資の促進や企業誘致を図る上で貴重となる各種の誘致施策を推進していきたいと考えているところでございます。

続きまして、施策名（2）起業や新分野への進出に対する支援による新たな雇用創出でございます。まず、KPI 名、起業者数累計でございますが、目標値 76 人に対しまして、結果は 74 人で評価は×でございましたが、おおむね目標達成できたと考えているところでございます。

課題といたしましては、起業につながるよう広く必要な周知や働きかけが必要であると考えているところでございます。

今後の取組といたしましては、起業に必要な情報の提供を商工会議所などの関係機関と連携して行っていきたいと考えているところでございます。

続きまして、施策名（3）地場産業の人材確保・育成および競争力強化でございます。

まず、KPI 名、彦根仏壇産地生産額でございますが、目標値 29 億 4,900 万円に対しまして、結果は 21 億円で評価は×でございました。

課題といたしましては、大型金仏壇の需要が低迷していることにあると考えているところでございまして、今後の取組といたしましては、彦根物産活性化のための人材育成や新商品の開発に加え、海外販路の開拓等の支援を要しているところでございます。

次に KPI 名、彦根バルブ産地生産額でございますが、目標値 231 億 7,700 万円に対しまして、結果は 253 億 7,700 万円で評価は○でございました。

課題といたしましては、前年度の生産額と比較しますと水道用弁、産業用弁、船用弁および鋳物の素材の全てでわずかながら増加しておりますが、さらなる彦根バルブのブランド力の強化と周知が必要であると考えているところでございます。

次に今後の取組といたしましては、彦根バルブ産業活性化のため、引き続き PR に努めるとともに内需拡大、海外販路拡大の支援を要しているところでございます。

次に KPI 名、彦根ファンデーションの産地生産額でございます。目標値 29 億 4,900 万円に対しまして、結果 29 億円で評価は×でございましたが、おおむね目標を達成できたと考えているところでございます。

課題といたしましては、工賃はやや上昇傾向ではありますが、受注量が横ばいとなっていること、為替変動の影響によって原材料の仕入価格および利益率が不安定であること、それから従業員の高齢化と若手従業員の確保が困難なことであると考えております。

今後の取組といたしましては、他の地場産業の人材育成、新商品開発、海外販路の開拓等の支援を要すると考えているところでございます。

続きまして、施策名（４）独自産業化や農商工連携の推進による農林水産業の競争力強化でございます。まず一つ目、K P I 名、認定新規就農集合者数（累計）でございますが、目標値 8 人に対しまして、結果 5 人で評価は×でございました。

課題といたしましては、新規の就業認定の農業者がなかったことございまして、今後の取組といたしましては、特徴ある農業経営を行う農業者の好事例を P R することで、新規就農のきっかけにつながっていければと考えているところでございます。

次の独自産業化に取り組む事業者数累計でございますが、目標値 6 人に対しまして、結果は 3 人で評価は×でございました。

課題といたしましては、国と独自産業化に関する総合化事業計画の承認を得た事業者がなかったことございまして、今後の取組としましては、特産品の創出を図り、園芸栽培や 6 次産業化の取組を底上げしていく必要があると考えているところでございます。

続きまして、施策名（５）人材不足の職場における人材の確保・定着への支援でございます。まず K P I 名、福祉の職場説明会参加者のうち就業・就職に結びついた人数でございます。目標値 1 5 人に対しまして、結果は 5 人で評価は×でございました。

課題といたしましては、有効求人倍率が高水準で推移していることもあり、職場説明会の参加者の減少も相まって、就職者数も減少したことによると考えております。

今後の取組といたしましては、職場説明会参加者をふやすためには、S N S などの活用による広範な周知や福祉関連の仕事に興味を抱かせるような内容へと変えていく必要があると考えているところでございます。

次の K P I 名、ひとり親家庭が就職に有利な資格等を取得する際にかかる費用助成対象者数（累計）でございますが、目標値 2 2 人に対しまして、結果は 2 1 名でございましたので、×でございますけれども、おおむね達成できたものと考えているところでございます。

課題といたしましては、体調不良等により休学され単位取得に至らない方や資格をいかした就職・就労に落ちつかない方などがおられることから一人でも多くの方に

資格を取得していただくこと、そして就労に結びつけていく手だてが必要であると考えております。

今後の取組といたしましては、受講中から資格取得後の求職活動に至るまで、切れ目ないフォローを行っていく必要があります。特に求職活動におきましては、積極的な就労支援を実施することで、就職後のアフターフォローも可能となるものと考えているところでございます。

次に施策名（６）観光・文化・スポーツの振興による地域活性化策の強化でございます。

まず、K P I名、観光見込み客数でございますが、目標値 3 6 1 万 1, 0 0 0 人に対しまして、結果は 3 0 7 万 3, 3 0 0 人で、評価は×でございました。

課題といたしましては、国宝彦根城築城 4 1 0 年祭および大河ドラマ「おんな城主直虎」の終了や台風 5 号など天候不順の影響もございまして、見込み客数が前年より減少したことにあります。大型イベントを生かしつつも持続的に誘客や収入につなげる取組が必要であると考えているところでございます。

今後の取組といたしましては、来年放映の大河ドラマ「麒麟がくる」を契機とした全国的な戦国キャンペーンに連動した効果的な誘客を図るとともに、近隣市町等の広域連携事業を含めた就業促進の取組を実施し、1人当たりの訪問地件数の増加を図っていきたいと考えているところでございます。

続きまして、K P I名、観光消費額でございます。目標値 1 9 0 億円に対しまして、結果は 1 5 8 億円で評価は×でございました。

課題といたしましては、観光入込客数の減に比例して、観光消費額が減少したことにあり、大型イベントを出しつつも持続的に集客や観光消費につながる取組が必要であると考えているところでございます。

課題といたしましては、収入促進による滞在時間延伸、宿泊の促進を図るためには観光消費につながる飲食・土産・体験メニューなどの観光コンテンツの開発やPRを引き続き取り組んでいく必要があると考えているところでございます。

続きまして、K P I名、市内宿泊者数でございます。こちらは目標値 3 6 万 6, 5 5 1 人に対しまして、結果は 4 5 万 6, 8 0 0 人で評価は○でございました。

課題といたしましては、新たな宿泊施設のオープンなどの影響もございまして、前年よりも宿泊者数が増加しておりますが、閑散期、繁忙期を含め全体的な底上げが必要であると考えているところでございます。

今後の取組といたしましては、滋賀県の戦国キャンペーンと連動した取組を含め、引き続きライトアップ事業など宿泊につながる取組の実施およびそのPRに努めていく必要があると考えているところでございます。

続きまして、KPI名、外国人観光客数および次の指標でございますが、外国人観光客市内宿泊者数でございますが、まず外国人観光客数は、目標値10万人に対しまして、結果8万5,328人でした。次の外国人観光客市内宿泊者数は、目標値5万5,000人に対しまして、結果は2万8,012人で、いずれも評価は×でございました。

課題といたしましては、評価は×でございますが、外国人観光客数は前年より7,000人強の増加となりました。しかし一方で、外国人の宿泊者数の伸びは低調で一時期の都市部からの宿泊客の流入が収まったことにあります。外国人の誘客につきましては、広域での取組が効果的であると考えているところでございます。

今後の取組といたしましては、県や近隣市で構成いたしますびわ湖・近江路観光圏活性化協議会、近江ツーリズムボードなどと引き続き連携を密にしまして、外国人観光客への積極的な情報発信や受け入れ環境の整備に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

次に、KPI名、歴史的風致維持向上施設の設置件数でございますが、目標値18件に対しまして、結果は22件で評価は○でございました。

課題といたしましては、歴史的風致の維持向上には継続的な取組を効果的に実施することが必要であると考えています。

今後の取組といたしましては、歴史まちづくりを進めるため、彦根市歴史的風致維持向上計画（第2期）に基づく各種事業の取組を関係課とともに推進していきたいと考えているところでございます。

最後になりますが、KPI名、本市スポーツイベントの参加人数でございますが、目標値2万7,800人に対しまして、結果は2万7,374人で、評価は×でございましたが、おおむね目標を達成できたと考えているところでございます。

課題といたしましては、仮称彦根市総合運動公園、同じく仮称彦根市市民体育センター等の整備期間中、新会場で円滑にスポーツイベントを開催していくことが必要であると考えているところでございまして、今後の取組といたしましては、平成30年度の新会場でのスポーツイベントを開催結果を踏まえまして、アンケートや実行委員会等での意見を聞きながらより安全で円滑な運営ができるよう改善に努めていきたいと考えているところで

ございます。

以上で内部評価の説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

ご説明ありがとうございました。

それでは、基本目標1の施策評価を行いたいと思います。事務局からは、総合戦略の各施策をより効率的・広角的なものにしていくにはという視点に立って、ご意見をお願いしたいということでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず1つ目の施策、企業立地や産業集積の促進等による地元での就職環境の整備、KPIは2つございますが、そこについて皆さんからご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

これは両方〇になっておりますので、特に問題ないのかその辺コメントがあればお願いします。

○委員

もちろん有効求人倍率、高い状況が続いておりますが、ことしの2月ぐらいから少し下がりは始めている、平成29年度の数字に近いのかなというふうに現在思っております。平成30年度で1.78倍ということですから、現在7月の最終が彦根管内で1.83倍ということになりますので、まだまだ高い状況は続いております。ただ、有効求人倍率が下がっているんですけども、人手不足というのは、ここに書いていただいていますように企業回りをさせていただいていると、やはり人手不足、慢性の状態でございまして、特に大学のほうとも話をしておりますとやはり彦根管内の事業者様、中小の企業様なんですけれども、やはりキャリアプランをきちんと立てていただきたいという大学の思いと、それから企業側は、何とか人手不足を解消していきたいというふうに思っておるんですけども、やはり働きやすい環境を整えていただくということをこの彦根地域雇用対策協議会とも連携をとっていただいて、より働きやすい仕組みづくりといたしますか、ぜひともつくっていただければというふうに思っておりますので、そこも盛り込んでいただけたらというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございます。人手不足、一時的じゃなくてキャリアもしっかり見据えて。

ほかにもございますでしょうか。

よろしゅうございますか。次の(2)の起業や新分野への進出に対する支援による新た

な雇用創出につきましてはいかがでしょうか。

これは76に対して70と、ほぼ達成ということでございますが、ご意見ございますでしょうか。

○委員

今、事業承継とか、その辺が非常に厳しい状況の中で、事業所数が今後減っていくということは、構造的な問題だと思いますけど、これから大学と連携しながらそういうものを具体的に育てていく受け皿、そういうものが必要になってくると思います。よくあるんですけども、インキュベーションセンターとか、あるいはアクセラレータ、ファンドとかもそうですけれども、そういった受け皿をちゃんと整えていく必要があります。彦根はベンチャーに優しいまちだということになると、大学卒業生だけでなく、ベンチャーを目指す人が外からも入ってくるということにつながっていくので、そういう受け皿をどうしていくかということが重要になってくると思うのですが、その点はどう考えておられますか。

○会長

具体的には何か考えておられるのでしょうか。

○雇用創出部会長

現時点としまして、委員からご提案ございましたような内容としての施策的な取組というのは、今のところございませんが、当然こういった幾つか事例もあるというふうに聞いております。その辺は課題として検討してみたいと考えてます。関係する商工会議所等いろんなところと協議しながらどういった形がいいのかというのを決めていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

県のほうもこういうところをどうするかという議論がされておりますし、我々大学のほうも利用したいという学生が出てきたので、それに向かって大学としてどういうふうな規定を整備するかとかを検討しております。学内で議論していると、そういう学生なり人に対して、シーズとかそういうアイデアは出てくるんですけども、具体的に財務をどうしたらいいのか、経理関係どうしたらいいのかとか、そういうところが全くわからないんですね。だからそういうところをまた伴走型でしっかりと定期的にフォローしていただけるような体制、こういうものがプラットフォームみたいにできれば、かなりいけるんじゃないかなと思います。ただ単にいや、来てもらったら支援しますという、お金はここでやりま

す、制度はここでやりますだと、ワンストップで全部いけないような感じがしますので、それをもう少し伴走型でしっかりフォローしていただくとかなり若い人も力がつくんじゃないかなという気はしております。

ほかにございますでしょうか。

(2) のところは、それぐらいにさせていただきまして、次に3でございます。(3) 地場産業の人材確保・育成および競争力強化ということで、仏壇とファンデーションについては×ということですが、いかがでしょうか。これにつきましてはご意見ございますでしょうか。

○委員

この部分について、もう毎回発言してるところではあるんですけども、出口戦略をどうするかが課題だと思います。いよいよ本当に仏壇業界とファンデーションというのを本当にきちんと地場産業として捉えて、K P I 目標をどのようにして達成していくのかという点について、ちょっとこの今後の取組のことを読んでいてもそういう意識が余り感じられないかなという気はしています。ファンデーションの生産額ってなっていますが、実際には生産はほぼ100%海外であり、海外で生産したものを輸入し少しだけ加工している程度かと思えます。ここでは生産額が指標になっていますが、実際にほとんど生産していないものを地場産業と本当に支援をしていくのか、支援をしていくのであれば、もっともっと関与しないと少なくともK P I というのは達成できないでしょう。人材育成、新商品開発、そもそも彦根仏壇に海外販路がつかれるのかという疑問も正直ありますし、平成31年度の最終出口を見たところでは、本当に地場産業支えていくのであれば、市場としてどういう助成であったり、どういう支援であったりということが出来るのかというのは、もう少し検討が必要なかなというふうに考えております。

○会長

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

○委員

先ほどの委員と同じようなことなんですけれども、仏壇の関係です。バルブの関係は結構支援が入っているのかなというふうにはちょっと思ったんですけど、本当に仏壇のほう、それからファンデーションのほうは私はちょっと見えません。ここに初めて来させていただいたときに、仏壇の関係でもっとアートの的に何とかならないものかというご質問は

させていただいたとは思いますが、そういったアート方面にいくのかどうなのか、その新商品の開発と書いてあるんですけども、どんなものが新商品の開発されているのかというのが、どうもちょっとわからないものですから教えていただければと思います。

○地域経済振興課

彦根仏壇につきましては、伝統的な技術というものをもちでございます。そういった技術・技法を継承していくためには、1つ目としましては、人材育成が重要ということで、それにつきましては、補助しております。そして、技術、技法を生かして仏壇以外にもいろんな加工して、また漆を塗ったり、金箔を押ししたりということで違う商品をつくったりしております。それと今そういった技法を生かしながら、曳山のミニチュアを作成されたりしておりますので、そういった分野にもその技術を生かして、進出しているという状況でございます。

○会長

よろしゅうございますか。

○委員

仏壇に関して、海外販路開拓の可能性というのはどういうものなのか、あるのかどうかですけども、どこに向けてどういう需要があるのか、そういうことをちょっとお聞きしたいのですが。

○地域経済振興課

海外販路のことでございますけども、昨年、ジェトロ滋賀にご協力いただきまして、中国のバイヤーの方に来ていただきまして、そこで実際に作業現場であるとか、そういったものを見ていただきました。現在は中国のほうでも日本の仏壇を売ってみるような動きはあるというふう聞いております。

○委員

中国のほうで大きな仏壇の需要があるというふうに見込んでいるのですか。

○地域経済振興課

中国のほうでもいろんな形のものになるかと思うんですが、そういったものについては向こうの習慣のものとかも日本と違いますので、ジェトロを通じていろいろ勉強しながら向こうのニーズにあった形のものを出したいというような話は聞いております。

○会長

ほかにもございますでしょうか。

## ○委員

先ほど曳山の話でましたけど、たしか2年ほど前にクラウドファンディング、仏壇組合がクラウドファンディングをされていたかと思いますが、本当にここにいらっしゃる彦根市役所の方で、何人の方がクラウドファンディングをしていたのだろうと知っているんです。私はクラウドファンディングを出資したんですけど、でき上がってきた最終の数字を見てると多分組合の人とうちの社員ぐらいしかしていないのではないかと正直思っていました。実際クラウドファンディングに参加して、5,000円ぐらいの物品を送っていただいて、技術は非常に高いものがあって、僕は伝統工芸として、確かにアート系にして海外販路というのはゼロではないと思っています。ただ、そこ本当に彦根市さんとして地場産業として守っていくという部分が正直、見えてこないなと思いました。クラウドファンディングの話でも、もっと市を挙げて情報を出していくべきではないでしょうか、そういうところもっともっとピンポイントで伸ばしていくという施策を打ち出していただきたいなという気はします。

## ○会長

ありがとうございます。技術をいかに次の新しいところに展開するか、技術者はしっかり技術を継承する、それをどういうところに、仏壇だけに展開しているのが現状で、それ以外のところにどう展開したらさらに新しく道が開けるのかというところ、2つのルートを考えないといけない。技術をいかに新しいところに展開するか、仏壇というものをどういうふうに今後育てていくか、大きい仏壇だけじゃなくて、住宅にあわせて、小さいの結構あるし、いろんなことが言われていて、それをどういうふうに考えて捉えていくのか、その2つをうまくやっていく、今この中で2つのことが混在している感じがしましたし、新しいところにも展開する中どうするかというのをもう少し整理したほうがいいのかなという気がしました。

いかがでしょう、ほかに何かございますが。

ファンデーションはいかがですか。なかなか見えないという話ですけど、地場産業として本当に位置づけていくかどうか。

生産が海外にシフトしていると、海外でつくったものを持ってきて、また海外への販路の開拓するといった、行ったり来たりするとさらにコストが上がって大変なことになるか、その辺はどのように考えればいいですか。

この辺もちょっともう少し内容を整理していただいたほうが我々理解しやすいかなとい

う気がいたしますが、いかがでしょう。

○委員

多分、高級ファンデーションが昔彦根のファンデーションの一つの売りやったというイメージは持っています。ただ今は自社ブランドをお持ちのところってほとんどなくて、大手の下請という形になっているので、市場として成長できるかどうかというのは、私も正直、自信はないんですけど、本当に地場産業としてもう一回隆盛を考えていくのであれば、やっぱり自社ブランドで、高級路線できっちり売っていける商品とその販路を用意してあげないと、今の継続ではかなり厳しい状態になっているのかなというのが私の印象です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、次の施策に移りたいと思います。（４）６次産業化や農商工連携の推進による農林水産業の競争力強化というところです。これはK P I が２つございまして、両方×ということですが、これについて委員さんから何かご意見ございましてでしょうか。

○委員

私はハローワークの窓口の仕事相談をさせていただいていた経験がございまして、よくその中で若い子が農業をやりたいと、年に何件かあるんですね。私は京都の者ですから、京都のいわゆる就農を受け入れてくれる自治体等々と連携をとって、送り込みなんかをしているんですけど、彦根市さんのほうは、若者にP Rをしますよというところらへんで、私が勉強不足なのかどうかわかりませんが、ハローワークとの連携というのは何かあるんですか。

○農林水産課

ハローワークさんとの連携というのは実際何もない状況でございます。ここで挙がっておりますK P I 名は、新規での認定農業者ということで、起業可能な件数をここでは評価として挙げています。就農につきましては、何件かあるのはこちらも把握していますが、新規で起業的な就農者という施策になっておりますので、ちょっと難しいという状況です。就農に関しては、本市にも相談してもらってますし、県のほうにもいっておられまして、ただハローワークとの連携という面に関してはちょっとない状況でございます。

○委員

わかりました。そうするとこれから就農していこうと、起業を立ち上げていこうという方々だということなんですね。なかなか大変じゃないですかね。逆に言うと例えばパイプ

をつくりあげてしまって、今言うように、これから就農をしたいという方を育てていって、新規のこういう起業をというような流れをつくり上げたほうがもっといいのかなというふうに思ったりするんですけど、そんなのはありますか。

○農林水産課

課題のほうで書いてありますように、要は彦根の農業というのは米中心になつとるんですけれども、なかなか今、中南部地域の水田地帯につきましては、大規模な認定農業者の皆さんに集約されていまして、もう新規で中に入っていく余地というのはないという状況でございます。新たに果樹なり、野菜で特産物なりを創出していってそういう関係でどちらかというとな新規の起業という形をとっていきたいという思いがあるということでございます。

○会長

よろしゅうございますか。

ほかに何かございますか。

6次産業化で、特産品の創出を図っていきますってこれ具体的にはどのようなものを考えたらいいんでしょう。

○農林水産課

彦根梨に代わるようなものとしまして、当然果樹か野菜の方向になると思うんですけれども、一応ホワイトアスパラというのもあるんです、なかなか手間がいるということで、難しい面があります。そういう面で県なりと相談させてもらいまして新たな特産物になるような、しかも彦根の地形なり田んぼの状態に合うようなものを創出していかなければならないという思いがあるということでございます。

○会長

新たな特産物の価値を認めてもらうには一流シェフとか、その辺の販路を確保しないといけないというところもあるかなと思うので、そこも一緒に考えていただけるとさらに早く結果が出やすい気がいたします。その辺も含めてご検討いただければと思います。

それでは、次に移ります。(5)の人材不足の職場における人材の確保・定着への支援ということで1つは、福祉の職場説明会参加者のうち就職に結びついた人数、これがちょっと少なかったということと、それと、ひとり親家庭が就職に有利な資格等を取得する際に係る費用助成対象者数につきましては、ほぼ目標達成できたという結果でございますが、これについて何か皆様からご意見いかがでしょう。

私のほうからちょっと質問ですけれども、福祉関係で、福祉の仕事に興味を持っていたような内容を検討と書いてあるんですけど、これは具体的にどのような人を対象にしておられるのかというのを教えていただけますか。

#### ○介護福祉課

説明会の中で福祉の職場に興味を持っていただくようなということで書かせていただいております。昨年度開催させていただいた説明会の中で、人数がかなり落ち込んでおりました、今、現に福祉の職場で働いておられる方が違う職場に変わられたりという方もおられますけれども、在学中の方ですとか、今ハローワークとかでお仕事探しておられる方、そういったところで少し数字を見させていただきますと、今仕事を探しておられる方の持ち込みがかなり大きかったというような結果が出ております。有効求人倍率、かなり高い中でなかなか福祉の職場を選んでいただけるということが難しい状態です、改善のためには、かなり仕事が厳しいというイメージをお持ちの方もおられるかと思っておりますので、実際のところの状況を知っていただくという必要があるのかなというふうに考えております。

現在、ハローワークさんのほうでは職場の見学会を合わせたそういった取組もしていただいているというふうにお聞きしておりますので、どちらかというところのほうにメインにはなってくるのかなと思っておりますけれども、こういった説明会の中で少しPRができる部分があればということで、検討させていただいているところでございます。

#### ○会長

ありがとうございます。

#### ○委員

確かに言われるように求職者が減っていているというのは、これはもう間違いない事実でございます。

ただ現状は今言っているようにやってはいつているんですが、求職者の方々が潜在的に恐らくハローワークに足を運んでいない方というのやはりありますね。そこをどう掘り起こしていくかというのが一つの課題だろうというふうに思ひまして、ハローワークのほうでは今、先ほど言われていたように職場見学プラス面接会という形で見学をしていただいて、気に入っていただいた方はそのまま面接に移行しましょうというドッキングさせたようなものを企画しまして、昨年の6月ぐらいからずっとやっておるんですけども、中心としては製造業がどうしても多いんですけども、福祉系もやらせていただいているという状況でございます。

あと、加えてハローワークのほうの中で、いわゆるマッチングを強化していきたいということもありまして、今、企業のPRをしております。約3分ぐらいで、企業のPR映像をつくり上げまして、皆様の今の若い方って映像のほうに興味をもたれますので、大体今90社ぐらいつくり上げました。現在は、所内3カ所でPRビデオを上映させていただいてまして、その中にも福祉も含まれてはいるんですけども、福祉に特化したようなものもやってみたいなというふうには思っています。とにかく埋もれた方を出していきたいなというふうに思っています。特に子育ての終わった、一段落した女性の方を活躍の場に出していけないだろうかというふうに思っているのが一つと、それからハローワークの求職者の層が随分変わっておりまして、今約3分の1がシニア層になっております。55歳以上の方が約3分の1をしめておる状態です。そのシニア層の活用という意味合いで、はたして介護の分野いけるのかどうかというのはあるんですけども、そこも一つの人材不足の解決の一つになってくるんじゃないかなというふうに思っておりますので、もし興味を持っていただけるような内容を検討しています。そうした中で、福祉の企業のPRをできるような何かをつくりあげていただければなというふうに思っておりますので、ハローワークのほうも一生懸命努力させていただきますけれども、よろしくお願ひします。

#### ○会長

ありがとうございました。

それでは、(5)はこれくらいにいたしまして、次に(6)観光・文化・スポーツの振興による地域活性化策の強化ということで、両方×でございますが、これについてはいかがでしょう。

来年度、大河ドラマ「麒麟がくる」が放映されますので、今年から取り組んでおかないといけないということで、これの具体的な方策っていうのはすぐに出てくるのかなっていか、ちょっと気になったりしたんですけど、このあたりはいかがでしょう。

#### ○観光企画課

この秋から県と一緒に10月末、11月が全国キャンペーンスタートということになります。大河ドラマが1月から放映ですので、この秋からスタートというイメージなんですけれども、今年度の事業としては、既存の事業プラスそれを戦国色づけるというような特色を持たしてございまして、例えば、彦根城の夜楽という夜にお城を登ろうというイベントを企画しているんですけども、それは戦国の衣装、コスプレをそこにくっつけていくであつたり、10月にさせていただいているご当地キャラ博でしたら、ゆるキャラの中でも

戦国に反映するようなキャラクターが集まるブースを1つつくろうかというところで、今の既存の事業ベースをちょっと戦国づけようというのが今年の動きになっています。

来年度どうしていくかというのはこれから予算編成の中で今いろいろアイデアを絞らないといけないなと思っているんですけども、もともと彦根が戦国と全く違うイベントをやっているわけではないというか、一方でイコール戦国ということでもあるので、もう少し戦国色を強くしたような集客できるようなものを検討していきたいなと思っています。

○会長

ありがとうございます。県と連携してからということでございますね。

ほかにございますでしょうか。

○委員

課題の中で築城410年祭とか、大河の終了によって落ち込むということも課題としてあります。今のお話もあるんですが、やはりいろんな大河とか朝ドラとかそういうもので利用してやればいいんですけども、イベント型の観光というのは、どうしてもやっぱり一過性になりがちなので、そのときはどっと来るんですけども、また落ち込んでいきます。もともと彦根は、例えばブランド調査の結果を見ても非常に評価されているんですけども、認知度が非常に低いと、誘客等につながっていないという結果が出てますので、やっぱりここを見ているとPR不足、プロモーションの不足かということを思います。やはりいい素材はたくさんあるので、それをそのまま使ってコンテンツとして仕上げていくということをやっていないといけないと思います。そして5%ずつでもいいんで、右肩上がりで増やしていくという施策をとっていないといけないと思います。ターゲット絞って、しっかりプロモーションをやっていくということと、ニーズに合ったメニューをつくっていないと、こちらが一方的にイベントしかけているだけではやっぱり誘客につながらないと思います。それと評価の中で宿泊が増えたというのは非常に評価されるんですけども、一方で入込客数は減っています。基本、宿泊客を増やしていこうというのが、消費額を増やしていこうということですので、先ほどのことつなげて、宿泊をもっとふやしていくためにも、具体的な施策というか、その辺についてもあわせてお聞きしたいと思います。

○観光企画課

先ほどの戦国でどういうことをというご質問でしたので、イベントをというお話を中心にさせていただきましたけれども、もちろんPRということ、彦根をそもそも余りご存知

ないというところは実感しておりますので、ただそれは市だけがやるわけではなく、むしろ民間さんなり、会議所さんなり、近江ツーリズムボードさんなりにも担っていただきたいとは考えています。広域につきましても、ターゲットを、インバウンドを中心にもっていくのであればおっしゃったように、この国のこの人たちはどういったことを求めて観光にいらっしゃるのか。あるいは、どういったところに行くのかというものの分析というのにも必要だと思います。官民連携しながらそういったその分析は専門的なところにお任せしつつ、一緒にイベントごとをやっていきたいと考えております。

宿泊の増加につきましては、彦根は基本的に宿泊する場所そのものの数が少ない、不足しているということは常々言われておりますので、じゃあどうしたら夜宿泊していただけるのか、その今やっていますイベントがどれぐらい目標にというか、それを目当てにお越しいただいているのかということも分析していかないと次の手は打てないのかなというふうに思っております。いずれにせよ、きちっとデータに基づきます分析ということは今研究しなければならないだろうと思います。これまでの集団でいらっしゃる観光客さんから個人の方、あるいは少人数の方がそれぞれの異なった目的で観光にお見えになっているという状況がありますので、なかなかターゲットが絞りにくいことはあるんですけども、今までのままの観光の考え方ではいけないだろうということに関係者の皆さんで認識を一にして、どうしていこうかということをお話あっていききたいなと思っております。

○会長

ありがとうございます。はい、どうぞ。

○委員

今も言われたようにデータという意味で言えば、実際に平日でも佐和山城に上がっておられる方はたくさんおられます。平日でも非常にたくさん上がっておられるので、そういうところで一定のアンケートがとれる状態をつくれば、どの層がどういう形で参加している、この彦根に来ていただいているということがわかると思います。そのときにどこどこを周られたのかということを含めて把握していけば、そこで1つのコース的なものができると思いますので、幾つかそういったコースを考えていただいて、それをベースにもっと彦根に来ていただける、歴史を散策していただける、広範囲にいろんなものがあるものをいかに活用して、周知、足を向けていただくという方法を考える必要があると思います。案内所はあるんですけど、意外と早く閉まってしまう。閉まってからでもやっぱりこられている状態です。ボランティアの方頑張っておられるんですけども、やは

りボランティアの方々ももう少し時間を延ばしてでも行っていただけるともっと理解していただけるのではないのでしょうか。また、極端に言えば、佐和山を登るためのガイドさんのことだけの位置づけでおられて、周りにたくさん史跡があるのに、そこに関する資料が余り置いていない。だから大洞弁財天に登ろうかという方がほとんどいない。井伊神社もありますよね。清凉寺と龍潭寺はつながっていますから皆さん見られます。そこ通らないと佐和山は登れないという形になってますね。

次に、もっといろんな、反対側を見れば、彦根城が見えるところがたくさんあります。そういうところをうまく活用していただければ、もっといろんな方がお越しいただけると思います。

○会長

ぜひその辺のルートマップとか、あの辺をこうまわったらいいのか、活用はあるかと思っています。

京都行ったときに、タクシーの運転手さんに聞いた話なんですけれども、やっぱり運転手さんの見方はやっぱり的を射ていて、ヨーロッパ系の観光客はほとんどタクシーに乗らないと、彼らは歩いて周るんだと、言われるんですね。中国系はたまに乗ってくれる、でもほとんどバスで移動ということで、海外の観光客がタクシー利用してくれないと言いますね。だからいかに歩いて周れるルートをしっかり見せるかということであればもう少し何か魅力の発信ができるのかなと思います。それからあとコンテンツなり、素材をいかにうまく結びつけて魅力として発信できるかを考えれば、もっといいんじゃないかなという気はします。

ほかに何かございますでしょうか。

○委員

歴史的風致維持向上施設の関係なんですけれども、これは維持向上計画があって、年次的に今年はこれだけという形で予算をつけてやっておられるので、基本的に達成すれば目標値どおりになると思います。件数が22件ということなんですけど、もし差し支えなければ、どういうところが増えたということをお伺いできるとありがたいんですけど。

○会長

いかがでしょうか。

○都市計画課

歴史的風致維持向上施設の整備件数の内容でございますけれども、こちらにつきまして、

これまでの計画期間の中で積み上げてきたという数値でございまして、これまで何をしてきたかという内容でいきますと、旧城下町での案内板の設置をしているということと、包括的な計画でもございますので、彦根城の石垣等の保存であったり、旧池田屋敷の保存活用、それに伴う修景舗装、そのようなことも含まれております。それと都市計画の関係も含まれてございまして、花しょうぶ通りを重要伝統的建造物群保存地区に指定したことであったりとか、本町2丁目の地区計画を策定したこと、そういうことも含まれております。それと伝建の地区を指定するに当たって、都市計画道路の見直しを行ったことなど、そういうことも含めて積み上げて22件ということになってございます。

#### ○会長

ありがとうございます。よろしゅうございますか。

時間もおしてまいりましたので、1番はこれくらいにして、次に基本目標2に移りたいと思います。次代を担う子どもたちを安心して生み、育てることのできるまちづくりでございまして、これにつきましては事務局のほうから説明いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

#### ○結婚・妊娠・出産・子育て部会長

基本目標2、次代を担う子どもたちを安心して産み、育てることのできるまちづくりの平成30年度の評価と課題につきまして説明させていただきます。よろしくお願いたします。

この基本目標2というのは、人口構造を安定させ、人口減少に歯止めをかける土台を築くため仕事と子育てが両立できる子育てしやすいまちづくりを進めること。またふるさとに愛着や誇りを持つ子どもたちの健やかな育成を図ることを目的として4つの施策を実施しております。KPI指標は全部で9つございます。

それでは資料3-2、1ページの中ほど、1つ目の施策、結婚から子育てまでの切れ目のない支援から順にご説明申し上げます。

この施策では5つのKPI指標を掲げてます。まず1つ目のKPI指標、年間出生数でございまして、本市の人口ビジョンにおきまして、年間出生数1,000人の維持を目安としておりますことから、平成30年度の目標値を1,000人としております。実際は947人でしたので、目標数値を達成することはできませんでした。

また次のページになりますが、2つ目の指標、0歳から15歳未満の年少人口の割合につきましても13.8%で目標値の14.1%を達成することができませんでした。評価

はともに×でございます。

これら2つの指標につきましては、一朝一夕に実績がなるものではなく、結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージにおける支援策を根気よく進めていく必要がございます。今後も移住・定住推進施策等による生産年齢人口の増加を図る取組を強化するとともに、滋賀県移住交流促進協議会事業への参加やふるさと回帰支援センターとの連携強化を継続してまいります。

また、本気で結婚を望む独身男女への出会いの場を創出する婚活支援につきましても強化するほか、子どもの医療や不妊治療に要する費用についての助成や、悩みや不安を軽減する相談体制を充実するなど、安心して出産・子育てができる環境の整備を図るため、各ステージにかかわる部局が連携して支援策を推進してまいります。

2ページ、2段目をお願いいたします。同じ施策の3つ目の指標、保育所待機児童数でございます。保育所などが開設され、保育の受け皿が拡大したことによりまして、平成30年4月1日現在の待機児童の数は29人となりました。目標値51人を下回りましたので、評価は○でございますが、高まる保育のニーズに対応するためには、さらなる取組が必要であり、不足している保育士の確保についても取組を図ってまいります。

次の指標、（仮称）彦根市子ども・若者支援センターの設置につきましては、目標値を1カ所としておりまして、平成28年度に彦根市子ども・若者総合相談センターを開設いたしましたので目標値は達成しております。

評価は○でございますが、社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者を支援するためには、センターのさらなる充実や工夫した取組が必要ですので、今後も機能強化を進めるとともに、子ども・若者支援地域協議会におけるネットワークの構築を図ってまいります。

次に1つ目の施策の最後の指標、地域での学習支援教室の整備についてでございます。中学生を対象とした学習教室や小学生を対象とした地域での居場所など、合計10カ所が開設され、目標値の4カ所を上回ることとなりました。

評価は○でございますが、学習支援が継続できるよう学習支援を担える人材の育成や運営支援が必要であり、今後も子ども・若者の健やかな育ちを応援する人づくり・地域づくりを進めるとともに活動を支援する方策を検討してまいります。

3ページをお願いいたします。2つ目の施策、小・中学校教育の充実についてでございます。この施策では2つのKPI指標を掲げております。

まず、1つ目の指標、市内児童・生徒の基礎・基本的な学習内容の習得状況につきましては、平成30年に実施されました全国学力・学習状況調査をもとにKPI値結果をお示ししております。小学校につきましては66.5%、中学校につきましては70%でともに目標値78%を達成することができず、評価は×でございます。

小学校・中学校とも学習内容の定着を図るための授業改善、家庭学習の充実が必要であり、今後は第Ⅱ期彦根市学力向上推進プランにのっとり、小学校ではOJTを推進する取組を、また中学校では全教員による研究・研修の取組を充実させ、確かな学力の育成を図ってまいります。

2つ目の指標、市内児童・生徒学校満足度につきましては、学校満足度調査による数値89.8%をKPI値結果としてお示ししております。目標値は94%でしたので、これにつきましても達成することはできず、評価は×でございます。

わかりやすい授業の構築や一人一人の子どもにとって居場所のある学校づくりが必要であり、主体的に学び、わかることが実感できる授業づくり、互いに認め合える集団づくりの推進を図ってまいります。

続きまして、3つ目の施策、ふるさとを誇りに思い、将来地域社会に貢献する子どもの育成についてでございます。

この施策に掲げていますKPI指標は1つで、地域行事に参加している児童・生徒の割合としております。小学校につきましては73.5%で、目標値84%を達成することができませんでしたので、評価は×でございます。中学校につきましては、63.9%で目標値63%を上回ることができましたので、評価は○でございます。

それぞれの学区によって、学校と地域との連携に格差がありますが、今後も学校と地域のネットワーク構築に努め、小学校では、地域のつながりを生かし、地域がわかるよう地域との連携充実を図ってまいります。また、中学校では、地域の情報を早く正確に生徒に伝え、積極的な参加を促してまいりたいと考えております。

最後の施策、仕事と生活の調和の推進についてでございます。ここでは、ワークライフバランス取組企業数をKPI指標としておりまして、滋賀県ワークライフバランス推進企業に登録されております市内の企業の数56件をKPI値結果としてお示ししております。目標値75件を達成することはできませんでしたので評価は×でございます。

ワークライフバランスの実現に向けて長時間労働の是正や有休休暇取得の促進など、市内の事業所に向けて啓発が必要であるため、今後は経営者や管理職、人事労務担当者に対

し、意識改革のために研修会等を実施してまいります。また、県の登録制度を周知するため、市の広報やホームページ掲載について検討するとともに、ハローワーク彦根さんや商工会議所さん等関係機関と連携し、登録制度の普及に努めてまいりたいと考えております。

以上が説明となります。よろしくお願いいたします。

○会長

それでは、委員さんからご意見頂戴したいと思いますが、まず1つ目の施策（1）ですね。結婚から子育てまでの切れ目のない支援ということにつきましていかがでしょうか。

年間出生数が少し目標よりは少なくて×、あるいは、年少人口ですか、これも×ということですけども、いかがでしょうか。

○委員

すみません、県の移住交流促進協議会との連携で、私、今年の1月に大阪のグランフロントで移住セミナーの関係、参加させていただいたんですが、そのときの印象だけお伝えしたいんですけども、これは県の方に言っていただきたいなと思っているんですけども、大阪のグランフロントというところで非常にいいところでの会場だったんです。ただ、そこでは人が集められないと私は思います。むしろその日、同日に同じようにやってらっしゃった他の県があったのですが、駅前の広場でやっておられました。駅前の広場のほうが絶対に人が集まります。効果を狙うのであれば、そういったところでぜひやっていただきたいというのが一つと、それから自治体さんというのは、確かにうちはいいとこでっせという周知広報をされますけれども、私、当日ハローワークのブースを急遽つくっていただいて、そこで4名の方とご相談させていただいたんですけども、移住を考えられる方というのは、やっぱり住むところとそれから仕事なんですね。やっぱり仕事はどれだけあるのかというのがやはり皆さん知りたいポイントであったというふうに私は結論づけたんです。なので、今後また連携をとっていかれるかと思しますので、場所とそれからぜひハローワークなんかの行政を利用していただいて、仕事はどれだけあるのかというところをトークに入れ込んだほうが絶対にいいと思いますので、ぜひ継続して連携をとっていただければと思います。特に場所を選定していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

気楽に立ち寄れるといいですか。ほかにございますでしょうか。

○委員

移住の関係なんですが、ふるさと回帰支援センター、有楽町にあると思うんですけども、滋賀県ブースもあって、非常に地方都市としてはとてもありがたい施設だと思うんです。連携強化となっていますが、具体的な成果・効果といいますか、現状どんな感じなのかその辺をお伺いしたいんですけれども。

○会長

いかがでしょうか。

○企画課

ふるさと回帰支援センターのほうに、地域おこし協力隊が移住コンシェルジュという役割で出させていただいて、そこで移住相談等実施させていただいて、年数回、PR等もさせていただいております。そこからSNSを通じて引き続き、継続した相談なりを受けて移住をしていただくような取組をしております。劇的に何十人という移住者につながったというところまでの成果はありませんけれども、地道に移住者がふえるような形でそこに取組を進めているというのが現状でございます。

○会長

よろしゅうございますか。ほかにございますか。

次に移りたいと思いますが、2つ目の小中学校教育の充実、これについてはいかがでしょうか。

ちょっと私のほうから、KPI、例えば市内児童生徒学校満足度で94%というのがKPIの目標になっているんですけど、この94というのはどこから出てきているんですか。

それで実績が89.8%だったら9割近いから、かなり良い数字だと思うんですけども、その辺どういうことかお願いします。

○学校教育課

このKPIの目標値につきましては、平成26年度の結果をもとに年々上がっていく形で設定されておまして、94まで今年度来ておる、ということになっております。今年度ですが、各小中学校の児童・生徒にアンケートをとりまして、学校がとても楽しい、または楽しいと答えてくれている児童生徒数の割合を求めまして、算出したのが89.8%という結果が出ております。

○会長

ありがとうございます。

そしたら最終年度は100ぐらいになるんですか、これは。

○事務局

最終年度の目標値については、資料2の一番右下が市内児童・生徒学校満足度のところ  
でございます、こちらが最終年度の目標値で恐らく95%となっているかと思えます。

○会長

わかりました。平成31年度で95になっています。100%だから100%はちょっと  
しんどいなと思ったりしたもので、わかりました。ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

○委員

今のKPIの話なんですけど、これ全体にわたってなんですけど、総合戦略策定時は僕は  
たまたま守山にいたので、守山の市役所さんと総合戦略つくって、その中でKPIいうの  
は、たしか最終評価をしないとイケない、本当にできるのかどうかも踏まえて、結構真剣  
に議論した記憶があるんですけど、あと1年ちょいしか残ってない段階で、先ほどの項目  
にしても、今回の項目全般にしても3割程度しか平成30年度のKPIができてない。来  
年最終年度で評価しなければならないのですが、このままいったら小学校中学校、これ学  
校の先生怠慢ではないかっていう意見が出てきてもおかしくないし、本当に全般見て、つ  
くった彦根市さんとして本当にKPIやっていくつもりあるのって言わざるを得ないのか  
なという心配をしています。

この間の、交付金事業の評価でも、これでは評価できませんよねっていうことで、新た  
にデータを入れていただいて、これやったらKPIは達成できていないけれども、施策と  
して有効なことがあったという確認をさせていただきましたけれども、このままでは来年  
最終年度、KPIが全然達成できてませんっとか言われて、ああそうですかって多分ここ  
にいる委員は言えないと思っているので、すみません、全体にわたってなんですけど、も  
う少しKPIができてるできてない、そこに対してきちんとした分析というのをもうちょ  
っとしていかないと平成31年度はちょっと心配だなと思っています。

○会長

ありがとうございます。

来年度評価する点、もうちょっとしっかりと内容が理解できるようなものになればと思  
います。

ほかにございますでしょうか。

## ○委員

質問なんですけど、一番上の基本的な学習内容のところですけども、同僚性を生かしたOJTの推進と書いているんですけども、通常OJTって認識しているのは、教師が面談して、目標設定をして、そして定期的に面談しながら目標は達成しているのか、してなければまた軌道修正したり、計画変更したりして、評価をしていくと。そして1年後にこういうとこまで持っていくというのがOJTかと認識しているんですけども、これ教師なり指導員の力量というか、僕は非常に重要な点だと思うんですけども、課題の中では若手教員や臨時講師を増加してるけど、能力のばらつきが課題だということが書いてあるので、この同僚性を生かしたOJTというのはどういうことなのか、お伺いしたいんですが。

## ○学校教育課

私自身もともと教員なんですけども、若かったころ先輩の先生方がたくさんおられて、日々の指導の中でいろいろと学ぶ場面がたくさんありました。先輩の数が多かったということも正直思います。ただ、ここの課題にもありますが、大量退職を迎えておまして、若手教員がふえていますし、合わせて若手の女性の方の出産等によるお休みの関係で、補充による臨時職員・臨時教員が入っているという現状があります。そんな中で、なかなか先輩の数も減ってきますので、意図的にチームを組んで、OJTという形での研修を深めていけるようにということに取り組むということ、指導等しておるところでございます。

## ○会長

よろしゅうございますか。

## ○委員

資料の中に経年のグラフがあるんですけども、成績とかが恐らく載って、基本的な学習内容の習得状況について、実績が毎年毎年下がっているというふうになってて、ちょっと非現実的になっているかと思います。満足度についても、ずっと100%に上がるのかみたいな目標の立て方になってるし、基本的な学習内容も毎年数パーセント上がっているみたいな、これだとなかなか達成できないふうになってしまうので、そもそも目標設定したときに、もうちょっと現実的なところで設定すべきじゃないかと思うんですね。余り非現実なこと設定しちゃうと結局やっぱり達成するの無理みたいになってしまう。もうなってますけど、逆によろしくないのだからやっぱり現実に達成できそうなところでやっぱり

改定するほうがいいんじゃないかなというので、ちょっと立てたときに一方的に上がるような設定はちょっとまずかったかなと思います。グラフをちょっとみて感じました。

○会長

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

お願いします。

○委員

問題なのは、平成26年度の基準値を全て下回ったということですね。これは結果として最終事業評価するときに努力できてないんじゃないかと言われても僕は仕方ないと思います。平成26年度の基準値というのが3分の1の1ページ目に書いてあったんです。これを基準値に目標を上積みでつくっていったんですけれども、現状全部基準値を下回ったんです。目標が高くてできてへんけれども、基準値は上回ってますよというのだったら、まだある程度評価もできると思いますけど、全部基準値を下回っていること自体にもっと危機感もっていただきたい。

○会長

それはちょっと進行中だとは思いますが、ぜひどんな対策をするかっていうのをしっかり考えていただきたいと思いますが。

大学でもいかに教員が教える力をつけるかということで、小学校・中学校だったら全教科担当されてて、全部埋まっているから学校授業あいた時間に見に行くということは難しいかもわかりませんが、お互いに見にいったいい点、悪い点全部コメントして、フィードバックするとか、あるいはどういうふうに講義するかというのをお互いに学習しあうような機会をつくったりとか、そういうことをやってはおります。

ただ、なかなか問題のある先生がそれに参加してくれないというのが我々の悩みではあるんですけれども、その辺はいかがなんでしょうか。結構そういうことをやっておられると理解してよろしいでしょうか。

○学校教育課

ありがとうございます。今おっしゃっていただきましたように、校内研修という形で全校上げて1人の先生の授業を見て学ぶとか、互いに見あうとか、というようなことも取り組んでいただいているところです。

ただ小学校は全教科教えますので、どの教科でも共通性があるのですが、中学校におき

ましては、教科担任制ですので、教科の専門性が出てまいります。その関係で、これからの取組というところにも書かせていただきましたが、全教員が1つのスポットに焦点を当てて研修・研究を行うという形で各校取組を進めようとしているところでございます。

○会長

ありがとうございます。その辺ももう少し、さらに効果が見られるような形で期待したいと思いますが、そしたらちょっと時間もあれなんで、次に移らせていただきます。

(3) ふるさを誇りに思い、将来地域社会に貢献する子どもの育成ということにつきましてはいかがでしょうか。何かございますか。

学区間格差が結構大きいということでございますが、この辺何か対策はお考えでしょうか。

○学校教育課

学区間格差と申しますのは、市内都市部もあれば農村部もあります。地域によって子どもたちが参加できる行事が多くあったりなかったり、またそれぞれの行事で子どもたちへの役割があるなし等々そういう意味での差があるという意味で書かせていただきました。それも含めて地域にある小学校、中学校ですので、地域の方と連携を密にとって子どもたちにそういうような情報を素早く正確に届けられるようにということで、参加のほうを促していきたいと考えております。

○会長 ありがとうございます。ほかに何かございますか。

特にないようでしたら次に、(4) 仕事と生活の調和、ワークライフバランスの推進、これについてはいかがでしょうか。

○委員

このワークライフバランスの推進なんですけれども、企業さんの感触というのはどうなんでしょう。どうなんでしょうという言い方はおかしいですけれども、何のためにワークライフバランスの実現をしていかなければいけないのかというのが、本当にわかってらっしゃるのかどうかを知りたいんですけれども。私、実をいうといろいろな企業さんをまわらせていただいて、人手不足をよく聞きます。人手不足を解消していこうと思うならば、ここはやっていかなければいけない部分であるということで、必ず申し上げます。今の若い子、特にゆとり教育で育ってきておりますので、給与はもちろん高いに越したことはないんですけれども、やはり働きやすい環境を求めるんですね。休みやすい、それから時間が短い、長時間労働でないというような企業さんを求めます。着任させていただいたとき

に、先ほど言われていた登録制度、ハローワークで言いますと、ユースエル認定という登録制度があるんです。若い子を積極的に採用し、教育し、という、積極的にそういうことをやってらっしゃる企業さんを認定するものなんですけれども、恥ずかしい話ながら着任させていただいたときには、彦根管内からその企業さんが1社も認定がないということが非常に気になりまして、取組を進めさせていただいて、今日また1社、午後から認定式を行うわけなんですけれども、やっどこさ彦根で4社目ということにはなります。なかなかハードルは高いです。そういった認定というのはハードルが高いんですけれども、やはりそういったことをやっていかなければ人手不足の解消はできないなということがどこまで企業様のほうに伝わっているのかというのが、ちょっとわからないものですから、どういった、この研修会を実施されていらっしゃるかと思うんですけれども、そんなところでのアンケートでどこまで反応があるのか、ちょっと知りたいのですけれども。

○会長

いかがでしょうか。

○企画課

私も4月に企画課に寄せてもらいまして、直接企業様のほうとお話をさせてもらえていないところでありまして、ちょっと推測という部分も申しわけないんですけれども、企業数というのはとにかく登録している企業数になりまして、ほぼほぼこれに登録すると県入札参加に加算点加わるということで、非常に建設業が多いというのが結果として出ていますので、推測の域で申しわけないんですけれども、恐らくそういったメリットがあつての登録というのが非常にあるのかなと。委員のおっしゃった本質の部分が、どこまで企業様として考えていただけるのかという部分には、本当にこれからしっかりと直接話をさせていただいて、啓発の仕方というのを考えて行かないといけないかなということを今感じておりますので、今からでは遅いのかもしれないんですけれども、ぜひ担当含めて企業様のほうに足を運んで実際、登録されている企業さんがどういった取組をしているのかというのをこれから登録していただく企業さんにどうお伝えするのかというのも考えていきたいというふうには考えております。

○会長

よろしゅうございますでしょうか。

どうぞぜひ本質のところをPRよろしくお願ひしたいと思ひます。

ちよつとこれで基本目標2を終わりたいと思ひますが、時間もあれなんですけど、ここ

でちょっと長時間なんですので、暫時休憩を取りたいと思います。

(休憩)

○会長

それでは、基本目標の3番目、若者のチャレンジにより、新しい人の流れが生まれるまちづくり、これにつきまして市のほうから説明をお願いします。よろしくをお願いします。

○若者定着・移住部会長

当部会では、本市に若者である学生が多数在学しておりますことから、学生の人材育成やスキルアップを支援し、学生がチャレンジできる環境整備を支援するなど、若者がチャレンジできるまちづくりを進め、若者世代を対象に市の魅力を発信し、移住を促進する仕組みを構築するなど、本市への移住策を進めてまいります。

それでは、3つの施策につきましてご説明させていただきます。

まず1つ目の施策でございますが、(1)市内大学を初めとした高等教育機関等との連携強化でございます。

KPI指標が2つございます。1つは市内3大学新卒者の県内就職率ともう一つは市内の就職率でございます。これはそれぞれ毎年度の卒業生の数値をとってございまして、現総合戦略最終年度でございます令和元年度にこの県内就職率は25.5%、それから市内就職率は6.0%とすることを最終目標値としているところでございます。

高等教育機関等との連携強化に係る1つ目のKPI数値、3大学新卒者の県内就職率でございますが、平成30年度の目標数値25.0%に対しまして、結果は21.2%でございましたので、評価は×になっているところでございます。

課題といたしましては、学生が県内企業を余り知らないということが就職に結びつかなかったということが挙げられます。環びわ湖大学・地域コンソーシアムが一昨年度に実施いたしましたアンケートでは、3分の1程度の学生が県内での就職を希望しているにもかかわらず、県内企業のことを知らないという結果が上がっているところでございます。

また、もう一つのKPI数値、3大学新卒者の市内就職率につきましては、平成30年度の目標数値を5.5%としておりましたが、結果につきましては、2.29%でございますので、こちらも評価としては×となっているところでございます。

課題といたしましては、滋賀大学と彦根商工会議所が開催されました取組でありますと

か、彦根地区雇用対策協議会での取組など、さまざまな取組を行っていただいているところではございますが、県内企業同様に学生が市内の企業を余り知らず就職に結びついていないということが挙げられるところがございます。

こうした状況を踏まえまして、今後実施すべき取組といたしましては、県内就職率および市内への就職率を上げるためには、滋賀県や湖東圏域の4町とも連携しながら企業紹介冊子を活用しながら企業の周知を図ってまいりますとともに市内企業の合同企業面接会など、就職説明会など多く実施することにより周知してまいりたいと考えているところがございます。

また、都市圏に比べたこの地域の物価の安さや通勤時間の短さ、恵まれた自然環境、アウトドアなどの趣味も楽しめるワークライフバランスを实践できるところなど、彦根の暮らしの魅力を都市部との比較を交えて学生にPRしていくことが必要であると考えているところがございます。これらのことを関係機関の皆様とも連携しながら検討してまいりたいと考えているところがございます。

続きまして、(2)でございますが、起業や新分野への進出に対する支援による新たな雇用の創出でございます。

こちら、雇用創出部会から先ほどご説明がありました、基本目標1の再掲でございますが、KPI数値は当該年度中に起業された数で、令和元年度の最終年度でございますが、95人を目標としているところございまして、平成30年度の目標数値76人に対しまして、結果は74人ございまして、わずかに目標値は届かなかったことから評価は×となっているところがございます。

課題および課題解決に向け、今後実施すべき取組につきましては、先ほど雇用創出部会において説明をされておりますので、この場では省略させていただきます。

続きまして、(3)移住策の推進でございます。KPI指標は毎年12月31日時点での社会増減数と当該年度中における移住施策による市外からの移住者数でございますが、令和元年度に最終年度でございますが、社会増減数を100人以上、移住者数は52人を目指しているものがございます。

まず1つ目の移住策にかかるKPI指標、社会増減数でございますが、平成30年度の目標数値100人の増加に対しまして、結果は564人の増加でございましたので、こちらの評価は○となっております。

内容につきましては、平成30年度の転出者は5,501人に対しまして、転入者は6,

065人でした。ただ、目標は数字の上では達成しているところではございますが、ゼロ歳から15歳未満の年少人口が減少していることにつきましては、これは課題と考えておきまして、課題解決におきましては今後お試し移住のニーズに対応する移住体験ツアーの実施でありますとか、新たな移住ポータルサイトを開設する中で、子育て世帯を意識した情報発信に力を入れるなど、シティプロモーションによる魅力発信、移住者への情報発信を強化してまいりたいと考えているところでございます。

2つ目の移住策にかかるKPI指標は、移住施策による市外からの移住者数でございますが、平成30年度の目標数値52人に対しまして、結果は91人で評価は○となっているところでございます。

課題と言いますか、事業から見えてきたことでございますが、移住施策を活用した移住者は結果として目標達成しているところでございますが、全ての移住者にとってこの移住施策が移住の決め手ではなかったということもわかっているところでございます。費用対効果を考えますと、今後は補助事業に頼らない移住施策が必要と考えておきまして、先ほど申し上げました新たな移住ポータルサイトの開設や体験型の移住ツアーの企画、また移住フェアや東京にございますここ滋賀などから市の魅力発信をもっと行っていくほか、市の魅力を最大限伝えられるような情報発信の検討を続けてまいりたいと考えているところでございます。

以上、基本目標3に対するご説明でございます。

○会長

はい、ありがとうございました。それでは、市内大学を初めとした高校教育機関等との連携強化につきまして、皆さんのほうからご意見があればお伺いしたいと思います。よろしいでしょうか。

特にございませんでしょうか。いかがですか。

○委員 そうですね、市内就職率は、市内に就職される方少ないかと思うんですけども、ちょっと目標が高いかなという感じは受けます。

○会長

ほかにございませんでしょうか。

○委員

就職フェアとか、そのときだけじゃなくて、日ごろから学生との接点があって、この町がよく理解できればここに落ちつこうとか、あるいはこの人の働いているところに拾って

もらおうとか、言い方まずいかもわかりませんが、そういうことも含まれてくるので、もう少し日ごろの学生との接点を少しふやせば、もっといいのかなと思ったりします。とにかく学生が滋賀県、彦根、どういう企業がきてどういう活動がしてあるのか理解できて本当に間違いないことではありますけれども、それをいかに理解させるかというのは、就職説明会だけでは全く理解してくれないので、彼らの目はとにかく、何て言うんですが、Webであるとか、ああいうところに向いているので、説明会に来てくれればいいんだけど、なかなかそこでうまく結びつくのがしんどいなって思ったり、すると地元で就職した先輩が直接コンタクトするとか、そういういろんなことを考えていかないと、なかなか学生さんのマインドに火がつかないとかそんな感じがいたします。

#### ○委員

やっぱり新卒でっていうのは厳しいと思うんですけども、最近転職とかもふえているので、都内で学生時代を過ごした人が、転職考えるような時期に彦根もっていう、指標というKPIじゃなくて、もう少しそのあたり、どのくらいできるかわからないですけど、そういう層に訴えるというのも必要なんじゃないかなと思いますね。新卒生に限るじゃないかな市内最初に新卒で就職っていうのは難しいのではないかなと感じます。

#### ○会長

確かにそうですね。

#### ○委員

ちょっとわからないんですけども、大学のほうに今言われていたように常日ごろから彦根管内の企業様の魅力発信、PRするような冊子はよくよくわかっているんですけども、映像で流しているようなそういうような学生が集うようなところにそういうPRビデオを流すということとはできないんですか。

#### ○委員

できます。うちの大学ですと学生が行く食堂の前にそういう商業ベースのやつなんですけど、モニターがあっつぽと押したらそれが出てくるというのがあります。

例えば、運転免許の教室なんかはそこに入れてられて押したらそのビデオが出てくる。だから企業さんもそれに入れていただければ企業の説明が聞けるという形にはあります。

#### ○委員

ライブラリー化してしまえばいいわけですね。例えば企業名を押したらその企業さんのライブラリーが見られるということ。

○委員

そうです。

○委員

そういうのは、今、仕組みというのはいないんですね。

○委員

だから、もっと大学も就職支援の部署がありますから、そこもっと連携を密にしていたらいろんなことが取り組めるとは思いますけども。

○委員 さっきハローワークのほうで企業さんのPRビデオをつくり上げてと申し上げたと思うんです、約3分ものなんですけれども、今約90社ばかりつくり上げてますので、そういったデータというのは全て企業様にもお返ししてますので、企業様のほうからそういった大学さんのほうへ流していただくような、そういう設定をしていただければいいのかなというふうに思います。また、引き続きデータをふやしていく予定でありますので。

○会長

(1)のほうはそれぐらいにしまして、(2)のほうは、再掲でございますので省略させていただきます。

それでは(3)移住策の推進についていかがでしょう。先ほどの議論とも関連してまいりますけど、移住するにはやっぱり仕事もしっかり見据えないとしてくれないという話でございましたし、これについてはいかがでしょうか。

○委員

社会増ベースの564というのは、人口10万人前後の地方都市としては、ちょっと異常値に近いのかなと思ってんですけど、何か特殊要因があったんですかね。先ほど子ども人口はふえてないということだったので、本来一番目指すべき子育て世代あたりの移住は進んでないという言葉にあると思うんですけども、その状況の中でちょっと564という社会増というのは結構びっくりなんですけど、ちょっと内容についてご説明いただければありがたいと思います。

○会長

いかがですか。

○企画課

しっかりとした分析は、申しわけありません、できてないんですけども、内訳といいますか、非常に外国籍の方の転入が多かったというのが特徴としてはございます。ですので、

年少人口であったりとか、高齢65歳以上の方の転入というのは非常に少なかったというのが特徴でございます。

○委員

外国籍の方の単身が多いと、家族。

○企画課

世帯状況までは、数字は拾えてないんですけども、はい。

○委員

そこをきっちり分析していかないと来年がKPI達成できるかどうかというのが非常に厳しいとちゃうかなと、だって今年564で大幅増だったから来年もいけるわ見たいなのではちょっと違うのかなという気がしてます。せめて外国人、多分人手不足の中で、特にバルブあたりはベトナムあたりから人をたくさん呼んでますから、そこが特殊と思われるので、せめてそのどれだけが特殊要因で、どれだけが自治体なのかというのをいただかないと、実際の事業評価というのは難しいんじゃないかなと思います。

○会長

ぜひその辺の分析もお願いしたいと思います。

ほかにございますでしょうか。

市外からの移住者っていう、これもあれですか。どのあたりから来られている方が多いとか、その辺はわかるんですかね。

○企画課

県内で言いますと、やはり周辺ですね、湖北、それから彦根市外の湖東地域地域からの転入が多くて、湖南のほうからの転入者は少ない、むしろ転出のほうを上回っているという状況でございます。

○会長

県外からは余り多くないですか。

○企画課

県外として、どこの地域からが多いという特徴は特になんですけども、京阪神であったり、東京近辺の方や、あと東海からの方がおられるという状況です。

○会長

ほかにございますでしょうか。

移住コンシェルジュを利用されているはどれくらいなのでしょう。

○企画課

ゼロではないんですけども、先ほども説明にありましたように564人の転入者のうち、どれだけがコンシェルジュの活動が寄与しているかといいますと、どちらかというとな少ないかとは思いますが、自然に転移しているか、就労が理由であったりとかでという理由で転移している方がほとんどであるというところです。

○会長

はい、ありがとうございます。その辺も含めてもう少し分析いただいて。

何かございますか。

○委員

外国人が増えているということであれば、例えば、言葉がわからない、子どもの教育とか、そういう部分も外国人にとって彦根が魅力的だったということもあると思うので、やはりそのあたりを少し詳しく調べていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

○会長

ぜひ分析を、お願いしたいと思います。

それでは基本目標の3はこれくらいにさせていただきまして、4に移らせていただきたいと思います。

時代に合った地域の中で、安心な暮らしを守るまちづくり、これにつかましてもまず市から説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○安全なまち部会長

それでは安全なまち部会、基本目標4、時代に合った地域の中で、安心な暮らしを守るまちづくりについてご報告申し上げます。

それでは資料3-4、KPI評価シートをごらんください。数値目標の指標は人口としております。平成30年度の評価と課題につかましても、まず、この基本目標の指標である人口でございますが、平成30年度のKPI目標値11万8,624人に対しまして、結果は11万3,073人で、449人の増となっており、評価としましては○でございます。

先ほども議論にありましたが、課題につかましても、外国人の増加などによりまして、総人口と生産年齢人口が微増しておりますが、年少人口は減少が続いておりますことから、これが課題であると考えられます。

しすべき取組としましては、子育て世代に対する移住および定住促進策の強化を検討し

てまいりたいと考えております。

次に、施策名（１）、彦根らしい多目的なコンパクトシティの形成でございます。まず立地適正化計画の策定でございますが、平成２９年度に策定いたしました、計画に基づき、関係施策を実施しましたことから、評価は○です。

課題につきましては、コンパクトシティの実現に向け、関連するさまざまな施策の積極的な推進が必要であると考えており、実施すべき取組としましては、限られた財源の中で、施策を推進するために交付金や民間資金の活用を検討し、進めてまいりたいと考えております。

次に、地域公共交通網形成計画の策定でございます。地域公共交通網形成計画は、平成２８年度に計画を策定後、バスの運転手不足による運航計画の見直しが必要となり、平成３０年度に全体的な見直しを行い、本年４月から新たな路線による公共交通の運航を開始できましたので、評価としましては○としております。

課題は、今後の利用促進を図るために再変更の路線や新たな割引制度の周知で、実施すべき取組としましては、新たな利用者の掘り起こしによる利用促進を図りたいと考えております。

次に、施策名２、空き家等住まい対策の推進でございます。まず、空き家等対策計画の策定でございますが、平成２９年度より策定いたしました計画に基づき、関係施策を実施しましたことから評価は○です。

課題は、計画に基づき具体的な施策を進めることが必要であると考えており、実施すべき取組としましては、空き家バンクの運営のほか、登録したら利用できる融資制度の周知など、財源を確保しながら施策に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、「住もうよ！ひこね」リフォーム事業助成金の移住・新婚・子育て・３世代同居要件での助成件数でございますが、目標値１４９件に対し、実績が２４３件で評価は○です。

課題は、当制度による市内産業の活性化や平常人口の増加を図るため、制度設計の見直し、再構築が必要であると考えており、実施すべき取組としまして、定住人口の増加につながる制度になるよう関係部局との調整を図り、制度を設計していきたいと考えております。

次に、施策名（３）公共施設マネジメントの確立による持続可能な施設整備運営管理でございます。

まず、施設類型ごとの個別計画の策定割合でございますが、目標値58.3%に対し、実績は47.2%で評価は×です。

課題は、公共建築物の建て替え工事の延期等により計画策定期間がおくれることで、実施すべき取組としまして、施設の老朽化度合いや利用状況、運営方法など、さまざまな分析により今後のあり方を検証し、できる限り早期の計画策定に努めてまいりたいと考えております。

ここで資料2、KPIグラフの最終ページ、基本目標4に関連するグラフをごらんください。そのうち左から2段目の施設類型ごとの個別計画の策定割合をごらんください。

今回実績は、当初計画の目標値に達しておりませんが、平成28年度以降、策定割合は着実にふえておりますことから、持続可能な施設整備運営化につながっていると考えております。

資料3-4、KPI評価2ページにお戻りください。次に公共建築物の総延べ床面積の削減率でございます。目標値0.56%に対しまして、実績は1.07%で評価は○です。

課題は、施設の廃止には利用者の理解を得るためにもアカウントビリティ、説明責任の向上が求められていることで、実質的な取組としまして施設の老朽化度合いや利用状況など各種分析と今後のあり方の検証の上、パブリックコメントなどを通じて計画を取りまとめ、総量の適正化を図ってまいりたいと考えております。

次に施策名4、安全安心な暮らしの確保でございます。まず自主防災組織設置別でございますが、目標値76.9%に対しまして、実績が74.2%で評価は×です。

課題は、防災意識は徐々に高まっておりますが、自主防災組織に対する理解がひけることや一部では高齢化などにより防災組織の設置が進まないことで実施すべき取組としましては、自主防災組織未設置の自治体に対して、周知啓発や組織結成に必要な規約作成などの支援を行ってまいりたいと考えております。

ここで、先ほどの資料2、KPIグラフの最終ページをもう一度ごらんください。左側3段目の自主防災組織率をごらんください。今回実績は当初計画の目標値に達しておりませんが、組織率は毎年着実にふえておりますことから、安全安心な暮らしの確保につながっていると考えております。

それでは資料3-4 KPI評価シート3ページ目をごらんください。次に彦根市内犯罪率でございますが、人口1万人当たりの刑法犯認知件数を指標としており、目標値108件に対し、実績は67件となっており、評価は○です。

課題は、今後も犯罪を抑止するため、警察等関連機関と連携し、地域の安全活動を推進することで、実施すべき取組としましては、引き続き防犯灯や防犯カメラの設置など、地域のさまざまな防犯活動を支援してまいりたいと考えております。

最後になりますが、施策名5、湖東定住自立圏共生協定に基づく取組の推進でございます。指標は湖東圏域1市4町の人口で、目標値15万4,712人に対しまして、実績が15万6,346人で評価は○でございます。

課題は、今後も引き続き広域で生活機能等確保することで人口流出を抑制することで、実施すべき取組としましては、湖東定住自立圏共生ビジョンに係る第2期計画が本年度までとなっているため、これまでの取組結果を踏まえた次期計画を策定することで引き続き圏域での連携を深めながら、地域連携による経済生活圏の形成をはかり、圏域全体の活性化を図ってまいりたいと考えております。

以上で基本目標4にかかる報告を終わらせていただきます。

○会長

はい、どうもありがとうございました。

それでは、評価に移りたいと思います。（1）彦根らしいコンパクトシティの形成、これについてはいかがでしょうか。ご意見いただきたいと思いますが。

○委員

取組として交付金や民間資金を活用検討しようということが上がっているのですけれども、ここでいう民間資金というのはどういうのを想定されているのか、その辺をお伺いしたいと思います。

○会長

いかがでしょうか、民間資金はどのようなものを想定されているのか。

○都市計画課

立地適正化計画というのは、民間資金の誘導というものを前提としておりますので、その観点からこういう表現をさせていただいておるのですけれども、彦根の駅前でも民間開発の予定もございます。コンパクトシティに整合した形での民間開発が進んでいくことを期待して、誘導をしていくということでございますので、そういう意味で資金の活用ということで表現させていただきました。

○会長

よろしゅうございますか。

次の施策名（２）、空き家等住まい対策の推進についてはいかがでしょうか。

一つ質問ですけど、リフォーム事業助成金の移住とかあるんですけども、これ〇で149に対して243、これがやっぱり人口増につながっているということでもいいんですか。そこはよくどのような形になっているのか。

○地域経済振興課

これについては大きく、これによって人口が増えているということでは思っていないんですけども、実際これを行ったことによりまして、リフォーム補助の件数なんですけど、平成30年度実績で言いますと移住が18件、それからあと新婚の方が6件と、また子育てが123件、3世代の方が96件ということでございました。ですから移住された方が18件ご利用された。また新婚さんというか、購入されたということでございますので、市内同士の婚姻も当然ありますけれども、市外からお一方来られていることもございますので、そういったことを考えると少しではございますが、定住人口の増加には貢献しているかなと思っております。

○会長

ありがとうございます。わかりました。

ほかにございますか。

○委員

計画を策定するみたいなことがKPIになっていて、もともと、そういう数字が難しい、難しいかもしれないですけども、もうちょっとやっぱり計画策定するってこと自体を目標じゃなくて、もうちょっと数値的な評価ができるようにして、それを評価していかないと、実質的な効果のある施策に結びつかないんじゃないかなと思います。例えば、安全安心な暮らしの確保というの、自主防災組織というのが増えれば、それで安心安全にすぐなるのかっていうのはちょっとすぐにはぴんどこなくて、犯罪件数が減っているとかだと、そういう数字もあつたし、そういうのは直接的にわかるので非常にいいと思うんですけども、ちょっとこの全体に計画を立てるみたいなことが、それ自身が目標になっているような感じは受けました。

○会長

ありがとうございます。

ほかにございますか。

（２）の施策名にはよろしゅうございますか。

(3)に移りまして、公共施設マネジメントの確立による持続可能な施設整備運営管理、これについてはいかがでしょうか。

特にございませつか。

じゃ(4)に移りまして、先ほどご指摘ありました安全安心な暮らしの確保ということで、自主防災組織については、確かに私の住んでいるところで、町内会で集まりますと、高齢者が多いですね。私が一番若いぐらい、その意味で、消火班とか行っても走って活動できるのかなという不安もちょっとございます。そういう意味で、組織するのは一番いいんだけれども、本当に実働部隊と考えるとどうしたものかなというところがございます。その辺はいかがなんですか。我々で守るしかないとは思っておるんですけども。

#### ○危機管理課

災害に当たりましてはやはり行政で全て見ることは全く無理でございまして、自助共助という部分が非常に大切になるわけございます。自分の命は自分で守る、地域は地域で守るということでやっていただく必要がありますので、常にそういった対応はしていただけるように、特に役割を決めていただくと消火班とか、先生おっしゃったようにありますけれども、そういうことも必要ですが、もし何か災害が起こったときに、地域の皆様どうするかと、例えば地域にある集会所に集まるとか、ご近所に独居の年寄りがいらっしゃったらどなたがその方のフォローをするとか、そういったことを確認していただくというのが、一つの大きな役割になるんじゃないかなというふうに思っております。

市内に340近く自治会がございますけれども、そういった自治会がもれなく、防災組織も組織していただいて、地域ぐるみで安全を守っていただければという体制を構築していきたいと思っております、出前講座やいろんな機会で啓発させていただいているところでございます。今後もそういう努力は続けていきたいと思っております。

#### ○会長

ありがとうございます。確かに少しずつ防災組織率が上がってって、共助ということでぜひ地道な活動よろしくお願ひしたいと思ひます。

よろしゅうございますか。

じゃ、(5)に移りまして、湖東定住自立圏共生協定に基づく取組の推進、これについてはいかがでしょうか。

これにつきましても、KPIは、人口で書いてあるので、先ほども同じような人口がふえた要因がどのようなことに結びつくのかということも分析しておいていただいたほうが

いいのかなと思いますが、委員の皆さんいかがですか。

よろしゅうございますか。

それでは議題の3、その他事務連絡等ございましたら事務局からよろしくお願ひしたいと思ひます。

○事務局

事務局でございます。本日は長時間ありがとうございました。

事務局からは、次回の会議の開催予定についてお知らせさせていただきます。本日も審議いただきました総合戦略につきましては、計画期間が今年度限りということになってまして、ただいま次期総合戦略の作成月で取り組んでおるところでございます。本日もKPI設定等ご意見もいただきましたけれども、本日いただきましたご意見も踏まえまして、第2期総合戦略の素案を作成してまいりたいと考えております。この素案が完成しましたのち、少し先になりますけれども、11月に本協議会を開催いたしまして、第2期総合戦略において委員の皆様方にご審議いただく予定をしておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局からの事務連絡は以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

皆様のご協力によって滞りなく審議することができました。どうもありがとうございました。

本日はこれもちまして、会議を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。

(終了)